

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	練馬区立子ども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数) 49
○従業者評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数) 44
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者の必要に応じて電話や面談を設けて、丁寧に相談に対応することが出来ている。	・面談や電話に丁寧に対応することで、じっくりと情報の共有時間が持てることで、保護者との連携を深め、こどもの困り感への方法を探ることが出来ている。	・保護者との共有したことを、訪問先で生かせるよう、訪問先との連携を強化し、支援に繋げていく。
2	・様々な職種があり、それぞれの専門職を生かした支援を行うことが出来ている。	・訪問支援員チームでケースの共有を行い、意見交換をよく行っている。	・検討内容を実践で生かせるよう、訪問先と保護者と連携をすすめながら、よりよい支援を探っていく。
3	・相談支援事業所や療育先等の関係機関との連携を定期的に行っている。	・相談支援事業所へは個別支援計画書のコピーの送付や、電話でのモニタリングをしており、療育先とも定期的に情報の共有を行い、今後の支援に生かすことが出来ている。	・関係機関と連携をさらに深めて、よりよい支援を検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者と電話か郵便でのやり取りが多く、面談の機会が少ない。	・保護者の多くが共働きの為、平日休みではない方が多く、平日にセンターでの面談の機会を作ることが難しい。	・保護者との電話での聞き取りを丁寧に言い、よい支援に繋げていく。
2	・訪問支援員の専門研修への参加の機会が少ない。	・様々な知識や経験を必要とする為、訪問支援員の数が少ないこと。	・訪問支援員チームでの共有や、園訪問をする療育先や相談支援員との連携を強化して情報交換を行う。 ・訪問支援員研修があれば、積極的に参加していく。